

自己教育力に影響をおよぼす要因の分析

多久島寛孝	山本勝則	弓掛和恵	吉田一子
山口裕子	永田華千代	徳永郁子	川本起久子
亀山亜弓	亀山広喜	大澤早苗	内山久美
西谷美幸	三村孝俊	田中英子	嶋田かをる
北野正文	梅橋操子	古庄富美子	井上悦子

熊本保健科学大学保健科学部衛生技術学科および看護学科の学生に対して、2003年9月から2005年3月までに実施した自己教育力調査から、自己教育力に影響する要因についての検討を行い、以下の結果を得た。

1. 自己教育力調査の4つの側面（Ⅰ～Ⅳ）の平均点および標準偏差においては、両学科ともに得点が高いのは、側面Ⅰ【成長・発展への志向】であり、得点が低いのは側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】であった。また、標準偏差のばらつきが大きかったのは、衛生技術学科の側面Ⅲ【学習の技能と基盤】、側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】であり、看護学科の側面Ⅲ【学習の技能と基盤】であった。
2. 自己教育力総得点と4つの側面の関連については、Spearmanの順位相関分析の結果から、衛生技術学科においては、側面Ⅲ【学習の技能と基盤】および側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】に強い相関がみられ、看護学科においては、側面Ⅲ【学習の技能と基盤】に強い相関がみられた。また、Stepwise法による重回帰分析においても、自己教育力総得点に対する影響は、衛生技術学科では、側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】、側面Ⅲ【学習の技能と基盤】、看護学科では、側面Ⅲ【学習の技能と基盤】、側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】が大きかった。

キーワード：自己教育力、自己学習能力、自尊感情

Ⅰ. はじめに

今日の医療の進歩はめざましく、保健医療に従事する専門職として時代に対応していくには、卒後の職能団体や所属施設による現任教育の重要性もさることながら、各個人による自学自習といった主体的な取り組みによる学習が重要であることは言うまでもない。これまでも多くの看護系の大学や専門学校、病院等で、看護学生や看護師に関する自己教育力について取り組みがあり、それらに関する多くの報告がある。

我々も、熊本保健科学大学における学生への教育の効果を明らかにする目的で学生の自己教育力について調査を実施し、それを客観的データとして学生の学習行動と対比して分析してきた。これまでの報告^{1,2)}は、主に実習前・後での自己教育力調査の得

点の推移から検討を行うなど、学生にとっての実習というイベントが自己教育力にどう影響するかという観点からであった。

今回、単に実習そのものの影響ではなく、1年次から2年次終了までに行った調査結果をもとに、自己教育力そのものに影響している要因について検討した。

用語の定義

自己教育力

自己教育力とは、自ら学び自己を成長させていく力を言い、以下の4つの側面から構成されるものとする（梶田、自己教育への教育、p. 36-53）。

側面Ⅰ【成長・発展への志向】（達成・向上への意欲、目標の感覚と意識）

側面Ⅱ【自己の対象化と統制】（自己の認識と評価

力)

側面Ⅲ【学習の技能と基盤】(学び方の知識と技能,
基本的な知識・理解・技能)

側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】

Ⅱ. 方 法

1. 調査対象

2003年度に熊本保健科学大学保健科学部(以下、
本学)に入学した保健科学部衛生技術学科および看護
学科の学生。

2. データ収集

データ収集は、2003年度入学生の1年次の2003年
9月から2年次終了の2005年3月までに実施した5
回の自己教育力調査から得た。対象数は衛生技術学
科449、看護学科505である。

3. 調査内容

調査は、自己教育力調査票を用いた(表1)。こ
の自己教育力調査票は、梶田³⁾が作成した30項目
の「自己教育力調査票」に西村ら⁴⁾が追加した10
項目を加えた計40項目からなるものである。調査票
の回答方式は、「はい・いいえ」の2件法とし、「は
い」に1点、「いいえ」には0点を配し数量化した。
ただし逆転項目(項目番号8, 9, 10, 17, 18, 19,
26, 31, 33, 34, 35)については逆配点とした。こ
の調査項目40項目は、側面Ⅰ(1~10)、側面Ⅱ
(11~20)、側面Ⅲ(21~30)、側面Ⅳ(31~40)に
分けられる。この調査票の信頼性・妥当性について
は、西村ら⁴⁾によって検証済である。

4. 分析方法

統計的解析方法としては、衛生技術学科、看護学
科ごとにすべての変数を得点化して行った。まず、
各側面の平均点および標準偏差を算出し比較した。
次に、自己教育力総得点と4つの側面についての関
連性をSpearmanの順位相関分析を行った。さらに、
自己教育力総得点を従属変数とし、4つの側面を説
明変数としてStepwise法による重回帰分析を行い、
説明力の違いをみた。その上で、各側面の得点とそ
の側面を構成する10項目の関連性をSpearmanの順
位相関分析を行い、相関係数(r)が0.4以上の変数
を取り出した。それら変数を説明変数として、各側
面の得点を従属変数としてStepwise法による重回
帰分析を行い、影響要因について検討した。統計的
有意水準はすべて5%とし、統計処理には、

SPSS11.5 for Windowsを用いた。

5. 倫理的配慮

調査にあたり、調査の趣旨、調査への参加は各個
人の自由であること、また学生番号や氏名の記載は
なく無記名での提出であり、個人は特定されないな
どプライバシーは保護されることを、文書および口
頭において説明し、同意の得られた学生の調査票を
対象とした。

Ⅲ. 結 果

1. 各側面の平均点および標準偏差

各側面の平均点(±標準偏差)は、表2に示す
とおりであった。標準偏差のばらつきが、大きかつ
たのは、衛生技術学科の側面Ⅲ、側面Ⅳであり、看
護学科の側面Ⅲであった(表2)。

2. 自己教育力総得点と4つの側面の関連

Spearmanの順位相関分析の結果から、衛生技術
学科においては、側面Ⅲ($r=0.72$)および側面Ⅳ
($r=0.72$)に強い相関がみられ、看護学科におい
ては、側面Ⅲ($r=0.734$)に強い相関がみられた
(表3)。

次に、Stepwise法による重回帰分析においては、
衛生技術学科では、側面Ⅳ($\beta=0.454$)、側面Ⅲ
($\beta=0.413$)、側面Ⅱ($\beta=0.335$)、側面Ⅰ($\beta=$
 0.251)であり、これら変数の寄与率(決定係数;
 R^2)は、 $R^2=1.0$ であった(表4, 6)。看護学科では、
側面Ⅲ($\beta=0.518$)、側面Ⅳ($\beta=0.449$)、側面Ⅱ
($\beta=0.4$)、側面Ⅰ($\beta=0.349$)であり、これら変
数の寄与率は、 $R^2=1.0$ であった(表5, 6)。一方
で、各側面の寄与率をみてみると、衛生技術学科で
は、側面Ⅲのみでの自己教育力総得点の寄与率は、
 $R^2=0.533$ であり、側面Ⅲおよび側面Ⅳの2変数で
の寄与率は、 $R^2=0.825$ であった。一方、看護学科
では、側面Ⅲだけの自己教育力総得点に対する寄
与率は、 $R^2=0.537$ であり、側面Ⅲおよび側面Ⅳの
2変数での寄与率は、 $R^2=0.706$ であった。

3. 4つの側面とその側面を構成する10項目の関連

4つの側面の得点とそれらを構成する各10項目の
得点について、Spearmanの順位相関分析を行い、
この相関係数から選択した項目($r=0.4$ 以上)(表
7, 8)を説明変数として行ったStepwise法による
重回帰分析を行った。その結果、衛生技術学科では
(表9)、側面Ⅰ【成長・発展への志向】については、

表1 自己教育力調査票

以下の項目について、当てはまるものに丸をしてください。1～40の質問については「はい」または「いいえ」のいずれかに丸をしてください。

学科 (衛生技術学科 看護学科)

性別 (男 女)

1. 自分の能力を最大限にのばすよう、いろいろ努力したい (はい いいえ)
2. たとえ認められなくても、自分の目標に向かって努力したい (はい いいえ)
3. 自分でなければやれないことをやってみたい (はい いいえ)
4. 自分がやりはじめたことは最後までやりとげたい (はい いいえ)
5. 将来、他の人から尊敬される人間になりたい (はい いいえ)
6. 社会に出てからよい仕事をし、多くの人に認められたい (はい いいえ)
7. これから専門的な資格や学位をとりたい (はい いいえ)
8. いったい何のために勉強するのだろうか、といやになることがある (はい いいえ)
9. ほんやりと何も考えずにすごしてしまうことが多い (はい いいえ)
10. 人の一生は結局偶然のことで決まると思う (はい いいえ)
11. 自分のよくないところを自分で考え直すよう、いつも心がけている (はい いいえ)
12. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない (はい いいえ)
13. 自分のよいところと悪いところがよくわかっている (はい いいえ)
14. 他の人から欠点を指摘されると自分でも考えてみようとする (はい いいえ)
15. できるだけ自分をおさえて、他の人に合わせようとしている (はい いいえ)
16. 腹が立ってもひどいことを言ったりしないように注意している (はい いいえ)
17. 疲れている時には、何もしたくない (はい いいえ)
18. テレビを見てしまって、勉強がやれないことが多い (はい いいえ)
19. ちょっといやなことがあると、すぐに不機嫌になる (はい いいえ)
20. いやになった時でも、もうちょっとだけ、もうちょっとだけ、と頑張ろうとする (はい いいえ)
21. 自分の調べたいことがある時に、図書館(室)を利用している (はい いいえ)
22. 自分の調べたいことについて文献検索をしていくことができる (はい いいえ)
23. 他の人の話を聞いたり本を読む時、内容を振り返りまとめてみる習慣がある (はい いいえ)
24. 考えを深めたり、広げたりするのに話し合いや討議が有効であると考えている (はい いいえ)
25. 考えていることを筋道たてて書いたり、伝えたりできる (はい いいえ)
26. たとえ話などを用いて人にわかりやすく、説明するのが苦手である (はい いいえ)
27. 自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている (はい いいえ)
28. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく習慣がある (はい いいえ)
29. わからないことがあると、すぐ人に聞くのが効率的と思う (はい いいえ)
30. 取り組みたいことによって、それにあった学習方法や手続きを選べる (はい いいえ)
31. 今のままの自分ではいけないと思うことがある (はい いいえ)
32. 他の人にばかにされるのは、がまんできない (はい いいえ)
33. とくどき、自分自身がいやになる (はい いいえ)
34. 何をやってもだめだと思う (はい いいえ)
35. 自分のことを、はずかしいと思うことがある (はい いいえ)
36. 今の自分が幸せだと思う (はい いいえ)
37. 自分のやる事に自信を持っている方だと思う (はい いいえ)
38. 生まれ変わるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい (はい いいえ)
39. 今の自分に満足している (はい いいえ)
40. 自分にもいろいろとりえがあると思う (はい いいえ)

ご協力ありがとうございました。

[9. ほんやりと何も考えずにすごしてしまうことが多い] ($\beta = 0.422$), [10. 人の一生は結局偶然のことで決まると思う] ($\beta = 0.380$), [8. いったい何のために勉強をするのだろうか, といやになることがある] ($\beta = 0.347$) であった (決定係数 $R^2 = 0.598$)。側面Ⅱ【自己の対象化と統制】については,

[20. いやになった時でも, もうちょっとだけ, もうちょっとだけ, と頑張ろうとする] ($\beta = 0.366$), [19. ちょっといやなことがあると, すぐ不機嫌になる] ($\beta = 0.336$), [11. 自分のよくないところを自分で考え直そう, いつも心がけている] ($\beta = 0.290$), [16. 腹が立ってもひどいことを言ったり

表2 4つの側面の平均点および標準偏差

	側面Ⅰ	側面Ⅱ	側面Ⅲ	側面Ⅳ
衛生技術学科	7.82 ± 1.28	5.89 ± 1.71	5.80 ± 2.11	4.80 ± 2.32
看護学科	7.47 ± 1.44	5.64 ± 1.65	5.45 ± 2.14	4.45 ± 1.86

(Mean ± SD)

表3 自己教育力総得点に対する各側面の相関

	側面Ⅰ	側面Ⅱ	側面Ⅲ	側面Ⅳ
衛生技術学科	0.578**	0.652**	0.720**	0.720**
看護学科	0.431**	0.492**	0.734**	0.553**

Spearman 順位相関係数 ** $p < 0.01$ 表4 自己教育力総得点に対する各側面の影響について
(衛生技術学科; 重回帰分析, モデル集計)

学科		R	R^2	調整済み R^2
衛生技術学科	モデル1	0.730 ^a	0.533	0.532
	モデル2	0.909 ^b	0.825	0.825
	モデル3	0.973 ^c	0.947	0.946
	モデル4	1.00 ^d	1.00	1.00

a. 予測値: (定数), 側面Ⅲ

b. 予測値: (定数), 側面Ⅲ, 側面Ⅳ

c. 予測値: (定数), 側面Ⅲ, 側面Ⅳ, 側面Ⅱ

d. 予測値: (定数), 側面Ⅲ, 側面Ⅳ, 側面Ⅱ, 側面Ⅰ

表5 自己教育力総得点に対する各側面の影響について
(看護学科; 重回帰分析, モデル集計)

学科	モデル	R	R^2	調整済み R^2
看護学科	モデル1	0.733 ^a	0.538	0.537
	モデル2	0.841 ^b	0.707	0.706
	モデル3	0.938 ^c	0.881	0.880
	モデル4	1.00 ^d	1.00	1.00

a. 予測値: (定数), 側面Ⅲ

b. 予測値: (定数), 側面Ⅲ, 側面Ⅳ

c. 予測値: (定数), 側面Ⅲ, 側面Ⅳ, 側面Ⅱ

d. 予測値: (定数), 側面Ⅲ, 側面Ⅳ, 側面Ⅱ, 側面Ⅰ

しないように注意している] ($\beta = 0.274$), [12. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない] ($\beta = 0.262$) であった (決定係数 $R^2 = 762$)。側面Ⅲ【学習の技能と基盤】については, [22. 自分の調べたいことについて文献検索をしていくことができる] ($\beta = 0.299$), [25. 考えていることを筋道をた

てて書いたり, 伝えたりできる] ($\beta = 0.279$), [28. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく必要がある] ($\beta = 0.251$), [23. 他の人の話を聞いたり本を読む時, 内容を振り返りまとめてみる習慣がある] ($\beta = 0.250$), [27. 自己評価する時には, 自分の目標にてらして行っている] ($\beta = 0.236$), [30.

表6 Stepwise による自己教育力総得点に対する各側面の影響

衛生技術学科			看護学科		
項目	標準化係数 (β)	p	項目	標準化係数 (β)	p
側面Ⅳ	0.454	***	側面Ⅲ	0.518	***
側面Ⅲ	0.413	***	側面Ⅳ	0.449	***
側面Ⅱ	0.335	***	側面Ⅱ	0.400	***
側面Ⅰ	0.251	***	側面Ⅰ	0.349	***

調整済み $R^2 = 1.0$ *** $p < 0.001$

表7 Spearman の順位相関による4つの側面とその側面を構成する10項目の関連

衛生技術学科

	項目番号	r	p
側面Ⅰ	9. ほんやりと何も考えずにすごしてしまうことが多い	0.568	**
	10. 人の一生は結局偶然のことで決まると思う	0.543	**
	8. いったい何のために勉強をするのだから	0.486	**
側面Ⅱ	20. いやになった時でも, もうちょっとだけ, もうちょっとだけ, と頑張ろうとする	0.544	**
	19. ちょっといやなことがあると, すぐ不機嫌になる	0.518	**
	12. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない	0.490	**
	11. 自分のよくないところを自分で考え直すよう, いつも心がけている	0.477	**
	16. 腹が立ってもひどいことを言ったりしないように注意している	0.438	**
側面Ⅲ	25. 考えていることを筋道をたてて書いたり, 伝えたりできる	0.668	**
	23. 他の人の話を聞いたり本を読む時, 内容を振り返りまとめてみる習慣がある	0.558	**
	28. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく必要がある	0.529	**
	22. 自分の調べたいことについて文献検索をしていくことができる	0.479	**
	30. 取り組みたいことによって, それにあった学習方法や手続きを選べる	0.477	**
	27. 自己評価する時には, 自分の目標にてらして行っている	0.436	**
	26. たとえ話などをもちいて人にわかりやすく, 説明するのが苦手である	0.406	**
側面Ⅳ	39. 今の自分に満足している	0.689	**
	38. 生まれ変わるとしたなら, やはり今の自分に生まれたい	0.660	**
	37. 自分のやる事に自信をもっている	0.657	**
	36. 今の自分が幸福だと思う	0.622	**
	34. 何をやってもだめだと思う	0.566	**
	33. ときどき, 自分自身がいやになる	0.543	**
	40. 自分にもいろいろとりえがあると思う	0.512	**
	35. 自分のことを, はずかしいと思うことがある	0.500	**

r=Spearman's rank correlation coefficient ** $p < 0.01$

取り組みたいことによって、それにあった学習方法や手続きを選べる] ($\beta = 0.210$), [26. たとえ話などをもちいて人にわかりやすく、説明するのが苦手である] ($\beta = 0.184$) であった (決定係数 $R^2 = 0.878$)。側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】については, [38. 生まれ変わるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい] ($\beta = 0.227$), [37. 自分のやる事に自信をもっている] ($\beta = 0.222$), [39. 今の自分に満足している] ($\beta = 0.214$), [36. 今の自分が幸福だと思う] ($\beta = 0.20$), [33. ときどき、自分自身がいやになる] ($\beta = 0.185$), [35. 自分のことを、はずかしいと思うことがある] ($\beta = 0.181$), [34. 何をやってもだめだと思う] ($\beta = 0.175$), [40. 自分にもいろいろとりえがあると思う] ($\beta = 0.172$) であった (決定係数 $R^2 = 0.952$)。

看護学科では (表10), 側面Ⅰ【成長・発展への

志向】については, [10. 人の一生は結局偶然のことで決まると思う] ($\beta = 0.437$), [8. いったい何のために勉強をするのだろうか、といやになることがある] ($\beta = 0.429$), [6. 社会に出てからよい仕事をし、多くの人に認められたい] ($\beta = 0.313$), [5. 将来、他の人から尊敬される人間になりたい] ($\beta = 0.28$) であった (決定係数 $R^2 = 0.716$)。側面Ⅱ【自己の対象化と統制】については, [20. いやになった時でも、もうちょっとだけ、もうちょっとだけ、と頑張ろうとする] ($\beta = 0.367$), [11. 自分のよくないところを自分で考え直すよう、いつも心がけている] ($\beta = 0.309$), [19. ちょっといやなことがあると、すぐ不機嫌になる] ($\beta = 0.306$), [12. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない] ($\beta = 0.295$), [16. 腹が立ってもひどいことを言ったりしないように注意している] ($\beta = 0.285$) で

表8 Spearmanの順位相関による4つの側面とその側面を構成する10項目の関連

看護学科

	項目番号	r	p
側面Ⅰ	10. 人の一生は結局偶然のことで決まると思う	0.582	**
	8. いったい何のために勉強をするのだろうか	0.513	**
	6. 社会に出てからよい仕事をし、多くの人に認められたい	0.437	**
	5. 将来、他の人から尊敬される人間になりたい	0.425	**
側面Ⅱ	12. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない	0.542	**
	19. ちょっといやなことがあると、すぐ不機嫌になる	0.520	**
	20. いやになった時でも、もうちょっとだけ、もうちょっとだけ、と頑張ろうとする	0.480	**
	11. 自分のよくないところを自分で考え直すよう、いつも心がけている	0.462	**
側面Ⅲ	16. 腹が立ってもひどいことを言ったりしないように注意している	0.432	**
	28. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく必要がある	0.600	**
	23. 他の人の話を聞いたり本を読む時、内容を振り返りまとめてみる習慣がある	0.583	**
	25. 考えていることを筋道をたてて書いたり、伝えたりできる	0.582	**
	22. 自分の調べたいことについて文献検索をしていくことができる	0.513	**
	30. 取り組みたいことによって、それにあった学習方法や手続きを選べる	0.480	**
側面Ⅳ	21. 自分の調べたいことがある時に、図書館(室)を利用している	0.446	**
	27. 自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている	0.441	**
	39. 今の自分に満足している	0.621	**
	37. 自分のやる事に自信をもっている	0.599	**
	38. 生まれ変わるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい	0.595	**
	36. 今の自分が幸福だと思う	0.512	**
	40. 自分にもいろいろとりえがあると思う	0.452	**
	34. 何をやってもだめだと思う	0.427	**

r = Spearman's rank correlation coefficient ** p < 0.01

あった (決定係数 $R^2=0.773$)。側面Ⅲ【学習の技能と基盤】については、[25. 考えていることを筋道をたてて書いたり、伝えたりできる] ($\beta = 0.334$)、[28. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく必要がある] ($\beta = 0.236$)、[27. 自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている] ($\beta = 0.232$)、[22. 自分の調べたいことについて文献検索をしていくことができる] ($\beta = 0.223$)、[30. 取り組みたいことによって、それにあった学習方法

や手続きを選べる] ($\beta = 0.217$)、[23. 他の人の話を聞いたり本を読む時、内容を振り返りまとめてみる習慣がある] ($\beta = 0.217$)、[21. 自分の調べたいことがある時に、図書館(室)を利用している] ($\beta = 0.215$)であった (決定係数 $R^2=0.880$)。側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】については、[39. 今の自分に満足している] ($\beta = 0.312$)、[34. 何をやってもだめだと思う] ($\beta = 0.298$)、[38. 生まれ変わるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい]

表9 Stepwiseによる4つの側面の得点に影響する各側面の構成項目

衛生技術学科

側面	項目番号	標準化係数 (β)	p
側面Ⅰ	9. ほんやりと何も考えずにすごしてしまうことが多い	0.422	***
	10. 人の一生は結局偶然のことで決まると思う	0.380	***
	8. いったい何のために勉強をするのだから	0.347	***
調整済み $R^2=0.598$ *** p < 0.001			
側面Ⅱ	20. いやになった時でも、もうちょっとだけ、もうちょっとだけ、と頑張ろうとする	0.366	***
	19. ちょっといやなことがあると、すぐ不機嫌になる	0.336	***
	11. 自分のよくないところを自分で考え直すよう、いつも心がけている	0.290	***
	16. 腹が立ってもひどいことを言ったりしないように注意している	0.274	***
	12. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない	0.262	***
調整済み $R^2=0.762$ *** p < 0.001			
側面Ⅲ	22. 自分の調べたいことについて文献検索をしていくことができる	0.299	***
	25. 考えていることを筋道をたてて書いたり、伝えたりできる	0.279	***
	28. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく必要がある	0.251	**
	23. 他の人の話を聞いたり本を読む時、内容を振り返りまとめてみる習慣がある	0.250	***
	27. 自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている	0.236	***
	30. 取り組みたいことによって、それにあった学習方法や手続きを選べる	0.210	***
26. たとえ話などをもちいて人にわかりやすく、説明するのが苦手である	0.184	***	
調整済み $R^2=0.878$ *** p < 0.001			
側面Ⅳ	38. 生まれ変わるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい	0.227	***
	37. 自分のやる事に自信をもっている	0.222	***
	39. 今の自分に満足している	0.214	***
	36. 今の自分が幸福だと思う	0.20	***
	33. ときどき、自分自身がいやになる	0.185	***
	35. 自分のことを、はずかしいと思うことがある	0.181	***
	34. 何をやってもだめだと思う	0.175	***
	40. 自分にもいろいろとりえがあると思う	0.172	***
調整済み $R^2=0.952$ *** p < 0.001			

表10 Stepwise による4つの側面の得点に影響する各側面の構成項目

看護学科

	項目番号	標準化係数 (β)	p
側面 I	10. 人の一生は結局偶然のことで決まると思う	0.437	***
	8. いったい何のために勉強をするのだろうか	0.429	***
	6. 社会に出てからよい仕事をし、多くの人に認められたい	0.313	***
	5. 将来、他の人から尊敬される人間になりたい	0.280	***
調整済み $R^2 = 0.716$ $p < 0.001$			
側面 II	20. いやになった時でも、もうちょっとだけ、もうちょっとだけ、と頑張ろうとする	0.367	***
	11. 自分のよくないところを自分で考え直すよう、いつも心がけている	0.309	***
	19. ちょっといやなことがあると、すぐ不機嫌になる	0.306	***
	12. 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない	0.295	***
	16. 腹が立ってもひどいことを言ったりしないように注意している	0.285	***
調整済み $R^2 = 0.773$ $p < 0.001$			
側面 III	25. 考えていることを筋道をたてて書いたり、伝えたりできる	0.334	***
	28. 自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく必要がある	0.236	***
	27. 自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている	0.232	***
	22. 自分の調べたいことについて文献検索をしていくことができる	0.223	***
	30. 取り組みたいことによって、それにあった学習方法や手続きを選べる	0.217	***
	23. 他の人の話を聞いたり本を読む時、内容を振り返りまとめてみる習慣がある	0.217	***
	21. 自分の調べたいことがある時に、図書館(室)を利用している	0.215	***
調整済み $R^2 = 0.880$ *** $p < 0.001$			
側面 IV	39. 今の自分に満足している	0.312	***
	34. 何をやってもだめだと思う	0.298	***
	38. 生まれ変わるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい	0.293	***
	37. 自分のやる事に自信をもっている	0.279	***
	36. 今の自分が幸福だと思う	0.193	***
	40. 自分にもいろいろとりえがあると思う	0.183	***
調整済み $R^2 = 0.850$ *** $p < 0.001$			

($\beta = 0.293$), [37. 自分のやる事に自信をもっている] ($\beta = 0.279$), [36. 今の自分が幸福だと思う] ($\beta = 0.193$), [40. 自分にもいろいろとりえがあると思う] ($\beta = 0.183$) であった (決定係数 $R^2 = 0.850$)。

IV. 考 察

今回の結果から、各側面の平均点および標準偏差からは、側面 I 【成長・発展への志向】は得点が高

い傾向にあり、しかも標準偏差のばらつきも少なかった。また、側面 II 【自己の対象化と統制】についても、得点は高くないものの標準偏差のばらつきが小さいことから、学生個人による影響は受けにくいものと思え、本学学生の自己教育力を高めていく上で、側面 I や側面 II については、ことさら急を要す対策は必要はないと考える。今回の結果で、標準偏差のばらつきが大きかったのは、衛生技術学科の側面 III 【学習の技能と基盤】、側面 IV 【自信・プライド・安定性】であり、看護学科の側面 III 【学習

の技能と基盤】であった。また、側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】は、両学科とも得点が低い傾向にあった。さらに、自己教育力の総得点と各側面との相関においても、強い相関を示したのは、衛生技術学科で側面Ⅲ【学習の技能と基盤】、側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】であり、看護学科の側面Ⅲ【学習の技能と基盤】であった。同時に、Stepwise法による重回帰分析においても、衛生技術学科では、自己教育力総得点に影響があったのは、側面Ⅳ、側面Ⅲ、側面Ⅱ、側面Ⅰの順であった。特に、側面Ⅳ、側面Ⅲの2側面だけでの寄与率は、 $R^2=0.825$ であり、約8割は、この2側面で説明できた。看護学科では、自己教育力総得点に影響があったのは、側面Ⅲ、側面Ⅳ、側面Ⅱ、側面Ⅰの順であった。特に側面Ⅲおよび側面Ⅳをあわせた寄与率は、 $R^2=0.706$ であり、約7割はこの2側面で説明できた。これらの結果から考えると、本学学生の自己教育力において、側面Ⅲ【学習の技能と基盤】、側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】の2側面が影響をおよぼす要因であることがうかがえる。以下、側面Ⅲ【学習の技能と基盤】、側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】について述べる。

1. 側面Ⅲ【学習の技能と基盤】について

看護学科では一番影響をおよぼしていたのは側面Ⅲであり、これは衛生技術学科においても側面Ⅳに次いで影響の大きい要因であった。梶田によると、この側面は、学校教育で直接的に形成される具体的な形での学力であるとされ、「学び方の知識と技能」を身につけるといふことと、「基礎的な知識・理解・技能」をきちんと修得するという視点から考えることが必要である（梶田、自己教育への教育、p. p. 45-47）。今回の結果では、側面Ⅲを構成している項目で、この側面Ⅲに影響をおよぼしている項目は、衛生技術学科で、「自分の調べたいことについて文献検索をしていくことができる」、「考えていることを筋道をたてて書いたり、伝えたりできる」、「自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく必要がある」等といった項目であり、看護学科では、「考えていることを筋道をたてて書いたり、伝えたりできる」、「自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく必要がある」、「自己評価する時には、自分の目標にてらして行っている」等の項目であった。これらは、学習の技術と自己の論理的思考とその根

拠の構築、および自己の学習の評価など自己学習能力に結びつくもの、すなわち学び方の能力に直結している項目である。梶田は、こうした学び方の能力は、その前提となる基礎的基本的な知識・理解・技能という基盤が必要であり、新たな学習のためには、その前提として、各教科で基礎・基本と呼ばれているような点をよく覚え、理解し、実際にできるようになっていることが不可欠であるとしている（梶田、自己教育への教育、p. p. 45-47）。つまり、梶田が言うように、この側面は学校教育で具体的に形成される側面であり、学習によって獲得していく要素が強い。こうした確実な学力の裏づけがあってはじめて自主的な学習ができるものと思える。これらは、学生時代に修得されるべきであり、それが将来的には、卒後教育に対する個人の取り組みにも大きく影響するものと考えられる。中新⁵⁾は、教師も時代の要請に合わせた教授目標の設定をし、学生の状況に合わせた教授-学習活動を行わなければならないと述べている。そのような大学内での教育のあり方も重要であり、学生の学習をいかに支えていくかということが問われていると考える。

2. 側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】について

衛生技術学科では、自己教育力に最も影響が大きいのは、側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】であった。また、看護学科においても側面Ⅲに次いで影響のある要因であった。多くの先行研究^{6,7,8,9)}は、この側面Ⅳの得点が一番低いことを報告している。今回、その側面Ⅳに対して影響を与えている項目をみると、衛生技術学科では、「生まれ変わるとしたら、やはり今の自分に生まれたい」、「自分のやることに自信を持っている」、「今の自分に満足している」、「今の自分が幸福だと思う」等の項目であった。看護学科では、「今の自分に満足している」、「何をやってもだめだと思う」、「生まれ変わるとしたら、今の自分に生まれたい」等の項目であった。それら項目から考えると影響をおよぼしているのは、自己を肯定的にとらえることができているかどうかということであり、それは自尊心そのものだと言えよう。酒井¹⁰⁾は、看護学生の自己教育力に関連する要因の中で、自尊心の高低に影響しているのは側面Ⅳであり、自尊心の高い学生は自己教育力が高く、自尊心の低い学生は自己教育力が低いと報告している。今回の結果においても、衛生技術学科では、側面Ⅳは自己教育力に一番影響をおよぼしてお

り、看護学科でも影響のある要因であった。酒井の報告に従えば、本学の学生は、自己教育力が低くなる要素を抱えていることになる。こうした自尊感情を低下させないための取り組みが必要である。また、同時にどういうことが自尊感情を低下させる要因となるのか、その実態について確実に把握する必要がある。

石井ら¹¹⁾は、看護大学生の学習活動と学習意欲に関する研究の中で、保健・看護学系の学生で専攻へ適応してない学生の中には、他学部の学生と比べて親や教師など周囲の勧めによって進学した者が多数いると報告している。本学の学生の動向は明らかではないが、石井の報告に従えば、そうした不本意に入学した学生が本学に在籍していることは十分に想定できる。不本意に入学した学生が入学後に衛生技術学科、看護学科といった専門教育の中で、自らの目標を見出すことには難しさもあり、学習意欲が見込めない点も予測できる。また、不本意入学の学生の自尊感情が低下していくことは十分に予測でき、他の学生へ影響をおよぼすことも予測される。このような本人の意志によらない入学生については、入学後の学習に対する取り組み方や成績の状況を把握し、専攻している学科について学生自らが当事者として考えることができるよう、教員による適切な助言を必要としていると考える。こうした点については、少人数担任制の活用が望まれるところである。

今回は、あまり言及しなかったが、側面Ⅰに対して影響のあった項目には、衛生技術学科では、「ほんやりと何も考えずにすごしてしまうことが多い」、「人の一生は結局偶然決まると思う」、「いったい何のために勉強をするのだろうか、といやになることがある」等の項目であった。看護学科では、「人の一生は結局偶然決まると思う」、「いったい何のために勉強をするのだろうか、といやになることがある」、「社会にでてから良い仕事をし、多くの人に認められたい」等の項目であった。これらの項目は、学生が自らの目標を喪失するといったことと結びつきやすい項目であり、側面Ⅳの【自信・プライド・安定性】といった自尊感情に結びつく項目である。中島ら¹²⁾は、病院看護師に行った調査の中で、自己教育力の低い看護師は、自己否定的な状況に陥っていたとし、自己の目標や課題を持っているか否かが鍵であると報告している。佐久間ら¹³⁾の調査では、側面Ⅲ、側面Ⅳの得点が低いとし、自己教育力

に影響を与える要因として、目標との関連をあげている。これらのことから、各学生が自身の目標や課題の設定ができ、それに対する努力ができる環境をつくることや学生に対する日々の学習活動の支援の中で、学生が達成感を得られるよう考慮しなければならないと言えよう。

側面Ⅳに影響している項目として「生まれ変わるとしたら、やはり今の自分に生まれたい」、「自分のやることに自信を持っている」、「今の自分に満足している」、「今の自分が幸福だと思う」、「何をやってもだめだと思う」等があがった。つまり、自分自身に自信が持て、自分自身を肯定的にとらえることができるかどうかにかかっている。それには、各学生の状況に応じた関わり方が重要である。新實⁹⁾は、学生に心理的安定をもたらすためには、教員の関わり方が重要であるとし、その影響力は大きいとしている。こうした教員の関わり方の中でも自尊感情を高める関わり方が必要であると考えられる。

今回の報告は、2003年度入学生について入学後2年間の調査票からみた本学学生の自己教育力についての検討であり、卒業年度の2007年度まで縦断的に検討している途中段階でもある。今回自己教育力に影響があると報告した側面Ⅲ【学習の技能や基盤】、側面Ⅳ【自信・プライド・安定性】については、今後も追跡していく必要がある。同時にこれらの側面でとらえられている内容を多面的に検討する必要がある。より確かな実態として、例えば自尊感情尺度など別の調査スケールを加えるなどして、その実態を明らかにし、対策を講じていくことが必要である。

V. まとめ

本学学生に対して2003年から2005年の2年間に実施した無記名式自己教育力調査から、自己教育力に影響する要因についての検討を行った結果、以下の結果を得た。

1. 自己教育力調査の4つの側面（Ⅰ～Ⅳ）の平均点および標準偏差においては、両学科ともに得点が高いのは、側面Ⅰであり、得点が低いのは側面Ⅳであった。また、標準偏差のばらつきが大きかったのは、衛生技術学科の側面Ⅲ、側面Ⅳであり、看護学科の側面Ⅲであった。
2. 自己教育力総得点と4つの側面の関連については、Spearmanの順位相関分析の結果から、衛生

技術学科においては、側面Ⅲおよび側面Ⅳに強い相関がみられ、看護学科においては、側面Ⅲに強い相関がみられた。また、Stepwise法による重回帰分析においても、自己教育力総得点に対する影響は、衛生技術学科では、側面Ⅳ、側面Ⅲ、看護学科では、側面Ⅲ、側面Ⅳが大きかった。

謝 辞

本調査に快くご協力いただきました熊本保健科学大学2003年度生の皆様に深謝いたします。

尚、この研究は、平成15年～17年度熊本保健科学大学特別研究費の助成を受けて行ったものである。

引用文献

- 1) 梅橋操子, 多久島寛孝, 三村孝俊, 他: 基礎実習前後における自己教育力の変化, 保健科学研究誌, 1号, 105-112, 2004.
 - 2) 多久島寛孝, 永田華千代, 北野正文, 他: 医療系大学在学中の学生の自己教育力の推移, 保健科学研究誌, 2号, 95-108, 2005.
 - 3) 梶田叡一: 自己教育への教育, 明治図書, 1985.
 - 4) 西村千代子, 奥野茂代, 小林洋子, 他: 看護婦の自己教育力-自己教育力測定尺度の検討-, 日本赤十字社幹部看護婦養成所紀要, 11号, 22-39, 1995.
 - 5) 中新美保子: 自己教育力育成を意図した小児看護技術演習の試み, Quality Nursing 10 (5), 491-498, 2004.
 - 6) 豊田省子: 看護教員の自己教育力に関連する要因-生涯学習の実態から-, 自治医科大学看護短期大学紀要第9号, 21-31, 2002.
 - 7) 倉林ちずる, 松下澄子, 佐藤敦, 他: 自己教育力と現任教育に参加する意欲の関係, 第34回日本看護学会論文集 (看護管理), 9-11, 2003.
 - 8) 小山久子: 自己教育力と職務満足度の向上に影響を及ぼす目標管理, 看護管理14 (7), 540-546, 2004.
 - 9) 新實夕香理: 看護学実習における自己教育力と授業過程評価の変化およびその関係, 長野県看護大学紀要6号, 61-71, 2004.
 - 10) 酒井明子: 看護学生の自己教育力に関連する要因-Self-esteemの高低に焦点をあてて-, 福井医科大学雑誌1 (1), 113-128, 2000.
 - 11) 石井秀宗, 椎名久美子, 柳井晴夫: 看護大学生の学習活動と学習意欲に関する研究, Quality Nursing 9 (11), 972-986, 2003.
 - 12) 中島博美, 岩崎智子, 弥永文枝, 他: 中堅看護師の臨床能力を高めるために-自己教育力の低い看護師の様相-, 第34回日本看護学会論文集 (看護管理), 207-208, 2003.
 - 13) 佐久間雅子, 岩本淳子, 藤村敦代, 他: 自治体病院の看護師自己教育力と自己教育力に影響を及ぼす要因に関する検討, 第35回日本看護学会論文集 (看護教育), 51-53, 2004.
- (平成18年1月16日受理)
- 多久島寛孝, 山本勝則, 弓掛和恵, 吉田一子, 山口裕子, 永田華千代, 徳永郁子, 川本起久子, 亀山亜弓, 亀山広喜, 大澤早苗, 内山久美, 西谷美幸, 三村孝俊, 田中英子, 嶋田かをる, 北野正文, 梅橋操子, 古庄富美子, 井上悦子
〒861-5598 熊本市和泉町325番地
熊本保健科学大学
保健科学部 看護学科
保健科学部 衛生技術学科

Analysis of Factors Influencing Self-Directed Learning

Hiroataka TAKUSHIMA, Katsunori YAMAMOTO, Kazue YUMIKAKE,
Ichiko YOSHIDA, Yuko YAMAGUCHI, Hanachiyo NAGATA,
Ikuko TOKUNAGA, Kikuko KAWAMOTO, Ayumi KAMEYAMA,
Hiroki KAMEYAMA, Sanae OSAWA, Kumi UCHIYAMA,
Miyuki NISHITANI, Takatoshi MIMURA, Eiko TANAKA,
Kaoru SHIMADA, Masafumi KITANO, Misako UMEHASHI,
Fumiko FURUSYO, Etsuko INOUE

Abstract

In the present study, factors influencing self-directed learning were examined based on the results of anonymous surveys conducted between 2003 and 2005 on students enrolled in the Departments of Medical Technology and Nursing, in the Faculty of Health Science, at Kumamoto Health Science University. The following results were obtained:

1. Regarding the 4 dimensions (I-IV) of self-directed learning, the highest mean and standard deviation among students in both departments were observed for dimension I, "motivation for self-growth and development", while the lowest mean and standard deviation were observed for dimension IV, "confidence, pride, and stability". A high degree of dispersion in the standard deviation was observed for dimensions III, "skills and foundation in learning" and IV, "confidence, pride, and stability" among students in the Department of Medical Technology; however, a high degree of dispersion was observed only for dimension III, "skills and foundation in learning" among students in the Department of Nursing.
2. The relationship between the total score for self-directed learning and the 4 dimensions was investigated using Spearman's rank correlation analysis. The results revealed strong correlations between self-directed learning and dimensions III, "skills and foundation in learning" and IV, "confidence, pride, and stability", among students in the Department of Medical Technology. Among students in the Department of Nursing, a strong correlation was observed between self-directed learning and dimension III, "skills and foundation in learning". In a stepwise multiple regression analysis, dimensions IV, "confidence, pride, and stability" and III, "skills and foundation in learning" showed a strong influence on the total scores for self-directed learning among students in the Department of Medical Technology. Among students in the Department of Nursing, dimensions III, "skills and foundation in learning" and IV, "confidence, pride, and stability" showed a strong influence on the total scores for self-directed learning.